



## 第15回 遠軽IC道の駅検討協議会 議事概要

平成30年8月24日（金）午後6:00

遠軽町役場 3階 大会議室

### 1. 開会

#### ● 総務部長 挨拶

- ・5月から名称の募集を行い、全国から600を超える応募があった。本日はコピーライターの池端宏介氏をお招きし「ネーミングと地域ブランド」というテーマで講演をいただいた中で、委員の皆様には最終選考として協議いただきたい。
- ・本体施設の工事も既に発注し来年12月の開業に向けて進めており、高規格道路についても日々工事が進んでいるところである。遠軽ICの開通時期は公表されていないが、町としてはこれまで通り準備を進めていきたい。

#### ● 座長 挨拶

- ・多くの業者が工事を進める中で、ロックバレースキー場の現場に行ってみると、いよいよ1年数か月後には道の駅ができるんだなと実感させられる。
- ・本日は、アドバイザーの協力のもと絞り込んだ最終候補について皆様には慎重に協議いただき、施設の「顔」となる名称を選考いただきたい。

### 2. 話題

#### (1) 報告

#### ● スケジュールについて【資料1】

(事務局説明)

- ・基本的には前回からの大きな変更点はない。今年度のスケジュールとしては、予定通り本体工事を発注し、来年10月末までの工期で現在建設を進めている。
- ・スキー場リフト等更新実施設計委託についても、リフトの更新を中心とした中で、ナイター照明、ゲレンデの拡幅等に向けた設計業務を予定通り進めている。
- ・指定管理と道の駅の登録についても大きな変更点はなし。
- ・裏面はより詳細なスケジュール案となっているが、こちらも前回までと特段大きな変更点はなく、詳しい説明は割愛させていただき、委員の皆様においては、ご確認いただきたい。

#### ● 遠軽IC道の駅を考える会等の経過について【資料2】

(事務局説明)

- ・前回、平成30年3月27日に開催した第14回検討協議会以降の考える会及びそれに付随する視察等の経過について報告し、検討協議会で内容を確認いただいた中で、引き続き協議を進めていくもの。

#### ◆ (1) 産業・食部会の経過

- ・4月以降の会議開催はないが、駅長候補者を中心に町内外の様々な事業者や生産者と直接協議しながら飲食・物販についての詳細を詰めているところである。また、自ら協議に来る事業者や生産者もお



り、注目度や期待感が高まっていることが感じられる。

- ・第7回会議は11月頃を予定しており、これまでの経過報告やオープンに向けた出店・出品者の募集概要等について部会委員に説明する。

#### ◆（2）体験部会の経過

- ・4月以降の会議開催はないが、駅長候補者を中心に町内外の様々な事業者と直接協議しながら屋内外の体験プログラムについての詳細を詰めているところである。
- ・5月には事務局から4人でジップラインやツリートレッキングのアクティビティの視察を実施した。伊達市（きたゆざわ森のソラニワ）と恵庭市（フォレストアドベンチャー恵庭）を訪問し、体験を通して施設の理解を深めるとともに、繁忙時のオペレーション等、実際の運用方法の調査や、遠軽に置き換えた場合の検討を図った。
- ・同じく5月にはロックバレースキー場の現場にジップライン、ツリートレッキングの専門業者が訪れ、現場視察を実施した。訪問した担当者の見解としては、ゲレンデ向かって右側のチャンピオンコースとダイナミックコースの合流点付近の森が木の状態やスペース的にも適しているとのことで、今後、そのエリアを中心に検討を進めていきたいと考えている。
- ・第6回の会議は12月頃を予定しており、これまでの部会での協議事項を反映した、今年度実施中のロックバレースキー場リフト等実施設計業務委託や視察の内容等、スキー場を含めた体験に係る全体の方針について部会委員に経過報告する。

#### ◆（3）情報発信部会の経過

- ・5月から7月にかけて、年齢制限を設けず国内在住者を対象に各種媒体で周知した中で名称を募集し、結果的に611名の応募があり、大きなPR効果が得られたと考える。
- ・7月には、直近、3年以内に新規オープンした主な北海道内・道の駅の視察として、事務局から7人で石狩市（道の駅石狩「あいろんど厚田」）、当別町（北欧の風 道の駅とうべつ）、七飯町（道の駅なないろ・ななえ）、木古内町（道の駅みそぎの郷きこない）を訪問し、販売、飲食及び各種情報発信の形態、繁忙時のオペレーション、防災に対する考え方、その他様々な成功事例や注意点などについて、指定管理者や自治体担当者との意見交換を通じて聞くことができ非常に参考となった。
- ・第3回会議は8月に開催し、名称の募集実績について報告するとともに、検討協議会や命名式に向けた流れについて確認した。選考にあたっては、外部のプロのアドバイスを受けた中で最終選考に提案する名称を絞り込んだ。
- ・ロゴマークについては、名称の決定後に公募する予定であったが、7月に視察した道の駅の事例等を踏まえ、名称以上に選考が困難であるとともに、指定管理者が販売促進やブランド力強化のために開発するものと判断し、公募はしない方向とした。なお、制作の過程や決定した際には随時報告させていただく。
- ・第4回会議については、10～11月頃の開催を予定しており、道の駅登録に際する施設の防災拠点化に向けて、地域防災計画への反映や実際の運用について危機対策室と調整の上、防災に係る基本構想を作成する。また、新年度のオープンに向けた各種イベント及び情報発信（各種媒体、システム構築）の概要をまとめるところである。
- ・名称選考にあたって外部のプロにアドバイザーを依頼した経緯としては、事務局をはじめ協議会委員においても、こういった施設のネーミングは初めてのことであり、今後何十年にわたって使用していく



名称の選考においては、施設の性質上より広い視点で専門的な知識を持つ外部のプロの意見を取り入れることで、末永く皆様に愛される名称になると判断したものである。

## ● 道の駅名称の募集結果等について【資料3】

(事務局説明)

- ・遠軽IC道の駅検討協議会事務局では、平成30年5月から7月にかけて全国的に名称を募集した結果、想定を超える多くの方からの応募があり、大きなPR効果が生まれたと考える。
- ・第3回情報発信部会においては、一定の条件を設けた中で外部のプロからのアドバイスを交えて名称候補の絞り込み作業を行い、第15回遠軽IC道の駅検討協議会において、最終選考を行うこととしている。

### ◆周知広報実績

- ・紙媒体（町広報、チラシ配布、新聞掲載、ポスター掲示ほか）、電子媒体（Webサイト掲載ほか）、その他プレスリリースとして情報発信を行った。
- ・その結果611点の応募があり、町内からが最も多く249点で内164点が学生となっている。これは町内の小中高生向けに別途配付したチラシの効果があったと考える。
- ・選考にあたっては札幌市のコピーライター・池端宏介氏に名称選考におけるアドバイザーを依頼し、専門的な知見からのアドバイスを参考とした中で、検討協議会に提案する名称候補を絞り込んだ。
- ・池端氏はオホーツク管内でも多数の仕事をしており、コンセプトにもある「オホーツクの魅力発信」という部分に精通していることも、今回、依頼した一つの理由である。また、北海道内の道の駅や自治体の広告宣伝等について手掛けている経験からも、今回の名称の選考におけるアドバイザーに適任であると判断した。

### ◆命名式

- ・名称の決定後、採用者を招待した中で命名式を実施することで、オープンに向けたPRを図るとともに、採用者である「名づけ親」に対して感謝の気持ちを形にし、町をあげて施設づくりを進めるムードを高めることを目的とする。
- ・名づけ親の都合や人数等により日時や場所を調整する。また、名づけ親には記念品等を贈呈し、今後は一緒にオープンに向けて盛り上げてくれるような役割にも期待したい。
- ・命名式の詳細については、この後の選考結果を受けて、速やかに本格的な準備にかかる予定である。また、式の様子については町広報紙や町ホームページ等で報告させていただきたい。



## (2) 講演

### ● 「ネーミングと地域ブランド」 池端 宏介 氏

- ・ 先般、SNSで遠軽町が道の駅の名称を募集していることを知ったが、北見市出身の自分としてはオホーツクの仲間として遠軽は好きな町でもあり、公募であることを心配していた。そんな中、えんがる商工会を通じて事務局とやり取りをするようになり、今回、名称の選考に関わらせていただいた。600を超える作品の中には、良さそうなネーミングもあって安心している。
- ・ 今やろうとしていることは、ただ施設の名前を決めるということだけでなく、遠軽のブランドを育てるということに直結するものであり、恐らく町内で最も人が集まる施設として、とても大事な部分である。
- ・ デザインは「課題解決」で、アートは「自己表現」であり、同じクリエイターと言われるジャンルでも別次元のものである。

### ◆ 「伝える」から「伝わる」へ

- ・ 特殊な貯蔵方法で長期熟成したじゃがいもにキャッチコピーとして付けた「よくねたいも」が商品名となり、わかりやすさ・呼びやすさと商品パッケージデザインの改善により、人気商品となった。
- ・ いくつかの自治体のブランディングにおけるキャッチコピーを手掛けた。地域の特産品の素晴らしさがあまり知られていないことが多く、それをいかにわかりやすく、面白く、伝わるように心がけている。
- ・ ユニークなことをしていると、メディアに取り上げられるようになる。広告費をかけずに宣伝するためには、メディアが取り上げたいような取り組みをすることが大事。

### ◆ ブランディングとは

- ・ 「独自性を出すこと」と「ちゃんとした感を出すこと」がブランディングの定義と考える。
- ・ 自分たちや商品の「らしさ」を出すには「具体的なキーワードを抽出できるか」がポイントとなる。
- ・ 見た目も大事で、商品に見合う「価値相応」のものでなければならない。パッケージにも「ちゃんとした」感を出すことで、価値が伝わるようになる。

### ◆ 「道の駅」の名称について

「らしさ」が存分にあり、その地域ならではの魅力が凝縮されているネーミングは、アピールがしやすい。



遠軽の場合は生産量が1位の特産品などではなく、自然資源としては瞰望岩が考えられるが、なかなか「らしさ」のアピールが難しい。しかし、それは今後つくり上げれば良く、これからの遠軽町としての意思表示を名称に込めていただきたい。



- ・地元の集客や知名度アップ、宣伝に寄与しない名称はマイナスにしかならないと考える。名前一つで行きたくなるものと、そうでないものがある。
- ・自治体のキャッチコピーに見られがちな、「空気ワード」と言われる「あってもなくても変わらない」ような言葉は、避けた方が良く考える。
- ・「オホーツク」というキーワードは、ブランド力がある。
- ・地図に明記されることでの宣伝効果は意外と大きい。
- ・最終的には、これからの遠軽のあり方が見える「御旗」のようなネーミングが選ばれることを望んでいる。
- ・遠軽は「らしさ」が弱いと言われることがあるようだが、逆に可能性に溢れた町だと思う。食も文化もアクティビティにおいても、まちづくりの視点から企画する伸び代があるのではないかな。
- ・ネーミングはもちろん大事だが、地元ならではの内装やロゴマーク、SNS映えなど広報・広告を考えながら施設づくりを進めていただきたい。

### (3) 議題

#### ● 道の駅名称の選考について【資料4】

##### 【協議内容】

- ・やはり最終候補から選ばなければならないのか。600点以上の中から、プロの目から見ても良いと思う名称でなければならない。
- ・コンセプトとしては、ただの道の駅ではなく一つの「テーマパーク」として考えており、夏も冬も楽しめるという方向性で進めていると思うので、それに合うようなイメージが良いのではないかな。
- ・これからのことも考えると「ロックバレー」という名称は良いと思う。「あそべる」という言葉もインパクトがあって良いのではないかな。
- ・「遠軽」と「オホーツク」も使いたい。「フォーレストパーク」も森のテーマパークの雰囲気合うのではないかな。
- ・「フォーレストパーク」は良いと思う。あとは、「遠軽オホーツク」よりも「オホーツク遠軽」の方が良いのではないかな。
- ・一覧表の類似案も含めて検討いただきたい。
- ・やはり「オホーツク」は良いと思うが、どうやって野菜や海鮮を売っていくか、まだイメージできていない。「フォーレストパーク」も良いと思う。
- ・なかなかイメージが湧かないが、これからのことを考えるのであれば、「ジオパーク」や「大地」という言葉も良いのではないかな。これから何十年と使う名称の選考はとても難しい部分であり、アドバイザーにもアドバイスいただいて、補足する形が良いと思う。公募である以上、そこから選ぶということが前提となるのではないかな。講演を聞いて、考え方が変わったところもあり難しい。
- ・オホーツクの発信基地ということ、どのように表現すればよいか。「うまいね」は美味しいものが食べられそうな、わかりやすいイメージ。中心となって準備している方の想いも大事にしたい。
- ・この施設は、普通の道の駅とは根本的に違う。スキー場併設という部分からも自然豊かな場所であり、集客を図る上で一つのテーマパークとして考えている。そういったイメージが出る名称が良いのではないかな。
- ・最終候補から決めるとなれば、限られてくる。
- ・考え方としては、「面白い」は必要ないと思う。未来永劫使うものであり、恥ずかしくないもの、後世



- に伝えられるようなものが良いのではないかと。言葉遊びに走るのには良くないと思う。
- ・考え方としては、「遠軽」と「オホーツク」を使うということだと思う。
  - ・「オホーツク」だけではつまらなく感じる。
  - ・「オホーツク」だけではイメージを訴えきれない。
  - ・テーマパークのイメージを出したいという部分もある。
  - ・名称にテーマパーク感が無くても、中身で出していくこともできる。オホーツクの発信基地という話があったが、遠軽はジオパークもあり、内陸オホーツクの拠点、遠紋地域の代表というコンセプトで、海より森のイメージを出す方が良いのではないかと。
  - ・「森のオホーツク」はどうか。
  - ・サロマ湖では、森から流れてきた栄養分から美味しいホタテになるという話もあり、ものすごく良いと思う。「森のオホーツク」は新しいコンセプトでとても良い。「オホーツクの森」でも良い。
  - ・「オホーツクの森」は既に使われている名称である。
  - ・「フォーレストパーク」もインターネットで調べてみると、類似名称がいくつも確認できる。
  - ・施設の場所的にも「森」のイメージは合うと思う。
  - ・ジップラインなどのアクティビティも森のイメージに合う。「森」は一つ大事な要素である。
  - ・応募作品の中で「冬や森のオホーツク」という作品がある。募集要項で「応募作品に加筆・修正する可能性があります」と謳っており、最もイメージの近いものを採用する方法もある。
  - ・「遠軽 森のオホーツク」はとても良いと思う。「遠軽」が先にあると電話でも言いやすいし、インターネット検索でも引っ掛かりやすいのではないかと。
  - ・「森のオホーツク」は今までにない響きであり、すごく新鮮。
  - ・タイミング的に家庭学校のオリンピック展示林の話もあり、「森」が入ることは良い。
  - ・施設のコンセプトを「森のテーマパーク」とすることで、施設づくりがしやすくなると思う。
  - ・「遠軽」は漢字が良い。「遠軽」は読みにくいと言われるが、これを機に漢字でも読んでもらえるようPRしていけば良い。バランスも良いと思う。
  - ・イメージに合致している。「木育」についても考えているので、とても良いと思う。
  - ・名称は「遠軽 森のオホーツク」を最終案として決定し、採用者は事務局で整理していただきたい。

### 3. 閉会

(事務局)

今回の検討協議会については、引き続き準備や会議等の進捗状況を報告し、オープンに向けた具体的な方針をお示ししたいと考えている。改めて案内するので、出席いただくようお願いしたい。

(配布資料)

- 資料1 遠軽IC道の駅整備スケジュール(案)
- 資料2 遠軽IC道の駅を考える会等の経過について
- 資料3 道の駅名称の募集結果等について
- 資料4 道の駅名称候補一覧表